様式２－２

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

１．実践校について

実践校名	しまねだいがくきょういくがくぶふぞくちゅうがっこう 島根大学教育学部附属中学校	
学科名	生徒数	学級数
	４１３	１２

２．実践研究の対象

全校生徒（第１学年，第２学年で学びをいかして活動する第３学年を中心とする。）

３．実践研究の実施経過

平成 27 年４月　本年度の実施計画の検討
５月　生徒事前意識調査の実施（全学年）
６月　生徒事前意識調査の分析（全学年）
７月　社会参画推進委員会メンバーの検討
外部団体への概要説明の渉外
８月　教員研修の実施
研究会参加（滋賀大学教育学部附属中学校）
９月　社会参画推進委員会の実施
11 月　年間活動の評価（全学年）
12 月　生徒事後意識調査の実施（全学年）
生徒事後意識調査の分析（全学年）
１年次活動内容の成果と課題の検討
１月　事業報告書の作成
２月　国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定研究協議会【総合的な学習の時間】参加（文部科学省国立教育政策研究所）
研究会参加（関西大学初等部）
社会参画推進委員会の実施
次年度の計画
平成 28 年４月　本年度の実施計画の検討
５月　生徒事前意識調査の実施（１学年）
６月　生徒事前意識調査の分析（１学年）
社会参画推進委員会の実施
10 月　総合的な学習の時間学習発表会の開催

社会参画推進委員会の実施
研究会参加（京都教育大学附属桃山中学校）
11 月　年間活動の評価（全学年）
12 月　生徒事後意識調査の実施（全学年）
生徒事後意識調査の分析（全学年）
１月　１年次活動内容の成果と課題の検討
２月　次年度の総合的な学習の時間の計画の検討
教員研修の実施
事業報告書の作成
３月　社会参画推進委員会の実施

４．実践研究の実施体制

本実践研究の実施にあたり，昨年度より社会参画推進委員会を組織した。委員会の委員は，これまで本附属中学校の総合的な学習の時間の活動に様々な立場から協力いただいている NPO 法人，行政機関から選出した。
各団体は次のとおりである。
NPO 法人松江ツーリズム研究会，認定 NPO 法人自然再生センター，松江市産業観光部，島根県教育センター，島根大学である。
NPO 法人松江ツーリズム研究会は，松江市への観光客誘致を通して地域の活性化，市の観光振興に寄与することを目的とした NPO であり，松江城や小泉八雲記念館などの指定管理事業などを行っている。本校３年生が取り組む「観光」分野での支援をいただいている。
認定 NPO 法人自然再生センターは，中海・宍道湖における自然の保全や再生を目的に中海自然再生会議の運営や環境モニタリング等を行っている。本校３年生が取り組む「環境」分野での支援をいただいている。
松江市産業観光部では，２年生の職場体験にかかわることから３年生の「生活」「環境」「観光」など幅広い分野での支援をいただいている。
島根県教育センターからは，総合的な学習の時間に係る指導や助言を，島根大学からは附属中としての地域貢献についての助言を得ている。
社会参画推進委員会では，本校３学年の取り組みについて重点的に助言をいただいている。３年生では，「生活」「ものづくり」「環境」「観光」「教育」「福祉」の６つのテーマに分かれ，課題解決に向けた取組を行っており，より地域に貢献できる取組に高めていきたいと考えた。
実際の委員会では次のような意見をいただいた。
・３年生のテーマ設定について，単に環境についての追求だけでなく，テーマを貫くことが大切。例えば，環境と食料，観光３つのテーマを結びつけて考えるなど，横のつながりをもつこと。縦割りだけだと行き詰まる。
・取り組むことが，地域にどう生きるか，誰が喜ぶか，どう横につながっていくかを考えて欲しい。例えば，宍道湖のゴミをアートにする。環境と物づくりが結びつく。また，ハザードマップと福祉を結びつけるなどの工夫も考えられる。
・住みたいまちの視点に，歴史や文化も含めてつないでいってみてはどうか。例えば，農

地一つをとってみても，時代を超えて受け継がれている。これをどう守っていくかも，課題となる。同時につなぐことの意義も考えることができる。
・自分たちが取り組んでいることが，結果として他のテーマの成果に結びついたという実感が伴うと良いのではないか。
・アウトプットをして，アウトカム，何を得たいのかを明確にし，それを目標にしていくことが必要ではないか。福祉施設で音楽を演奏することが目標にはならない。音楽を演奏することで相手がどう思うか，感じるか，これがアウトカムである。住みたい町のどの部分に結びついていくのか，見通しをもつことが必要である。
　以上は，いただいた意見の一部であるが，各分野に教員一人が担当というスタイルでこれまで取り組みを進めてきており，他の分野の取り組みと関連づけるといった視点を新たにもつことができた。

５．教育委員会等として取り組んだ内容

なし

６．実践研究の評価等

○　各教科等との関係の整理
①　教科横断的な思考のために必要となる資質や能力や各教科等との関係を整理する。
・職員会や教科部会を開き，各教科で総合的な学習の時間に向けて育む力，総合的な学習の時間で付けた力をどのように教科で生かせるかなど明確にし，分類，整理する。
○　カリキュラムの系統性と検証
①　３年間を通したカリキュラムをどう位置付けて，その中でどんな資質や能力を育てたいかを整理する。
○　評価について
①　総合的な学習の時間の目標や内容に従った評価の観点を設定する。
②　いつ，どのような方法で評価作業を行うのかを明確にする。

様式２－３

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：島根大学教育学部附属中学校

概要

○　社会との接点をもつ中で，「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」を大切にした探究的な学習活動を通して，主体的に生きていく力を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムのねらい

○　自分の実感・納得を大切にしていく中で，自分なりの疑問や課題をもち，その解決に向けて考えたり行動したりする力。（こだわり）

○　他者の立場や視点を大切にして，目的に向かって他者と共に取り組み，ひと・もの・ことと積極的に関わる力。（かかわり合い）

○　取組を振り返る中で，自分のよさや可能性に気付き，自分の生き方について考えようとする力。（ふりかえり）

学習プログラムの主な内容

①　１年 Bridge Ⅰ「社会を知る」

高齢者福祉施設での追求型の体験活動

②　２年 Bridge Ⅱ「社会に関わる」

職場体験活動での選択型の体験活動

③　３年 Bridge Ⅲ「他と共に社会に参画する」

地域社会での社会参画を軸にした発信型の体験活動

④　Information 総合

Information 総合は，インターネットや図書館の利用など，情報活用能力の基礎的・基本的な内容についての学習や，プレゼンテーションの方法，発表資料のまとめ方などについての学習。

⑤　総合的な学習の時間と関連した道徳

各学年の実態や総合的な学習の時間の目標と照らし合わせ，島根県教育委員会作成の『しまねの道徳』の資料を使用した学習。

⑥　総合的な学習の時間と関連した国語

郵便局の「手紙の書き方体験授業」教材を活用した学習。

⑦　総合的な学習の時間と関連した社会

総合的な学習の時間と関連した２年生の社会の学習。

学習プログラムの成果の概要

以下は事後アンケートにおいて，「１年間の総合的な学習の時間を通して自分が成長できたところ」についての自由記述を示す。

【１年生】

○　自分から進んで活動することができるようになったし，何よりコミュニケーションがとれるようになったことは一番嬉しかったです。

○　福祉交流体験活動を通して，人と接するスキルや積極的に交流するスキルが少し身に付いた。また，松江城やホーランエンヤを守っておられる方からお話を聞いて，私の周りの地域の人の生き方や考え方を知ることができた。

○　「社会を知る」という目的で松江の現状を知り，そこから住みたいまちについて考えることを通して，意見を出したり，みんなで課題を考えたりすることが楽しく思えるようになった。

○　あまり松江に魅力を感じていなかったけれど，総合の時間で松江のことを考えることで興味をもてたし，課題などについても考えることができた。つまり，自分は松江について知れたし，今は松江をどうしたら住みたいまちになるのか考えるのが楽しい。

○　大きな課題であっても，順序だててしっかりしていけば解決ができることを知った。いろいろな立場の人の話を聞いて，自分自身の住みたいまちについて考えることができた。

【２年生】

○　地域のことについての関心，人に理解してもらえるわかりやすいプレゼンの能力がついたと思う。職場体験を通して，働くことの厳しさややりがいも学んだ。

○　島根は田舎で嫌だと思っていて，今も都会に行きたいという気持ちはあるけど，総合でいろいろな島根の良さも知ることができた。だから，今は来年の社会参画活動で，地域のために何ができるのだろう，島根のためにと考えることができるようになった。

○　今までよりもあいさつができるようになった。人と人とのつながりが大事だと職場体験で学んだからだと思う。職場体験や講演などを通して関わったたくさんの人の生き方を知ることで，自分の将来についての参考になった。

○　みんなの考える住みたいまちがいろいろあって，自分と意見が違う人が多かった。みんなで意見を伝え合うことのおもしろさを知った。また，人の考えを否定せずに「こういう考え方もあるのか」と受けとめることができるようになった。いろいろな人と関わったり，講演を聞いたりすることが，自分の生き方のプラスになることがわかったので，積極的にたくさんの人と関わりたいと思うようになった。

○　自分が人に支えられて生きていることを自覚した。お店にいくと物を買って終わりだけど，その裏に，物を仕入れる人，作る人，店を掃除する人など，いろいろな人が関わっていることを知った。だから私もだれかの支えになりたいと思ったし，支えがいっぱいあるまちを作りたいと思うようになった。

【３年生】

○　自分が決めた課題に対して最後まで追求していく力や，活動を資料にまとめ聞き手に伝える力が身に付いた。様々な人と関わって，相談したり協力したりして活動することができるようになった。

○　いつまでに相談して，アポをとってなどの計画を立てることができるようになった。また，問題が起きたときに，解決案を考えてすぐ行動する力がついた。これにより，臨機応変な対応ができるようになった。

○　今まで自分は将来やりたいことがないような状態だった。でも，今回の総合で自分自身がやってみたいことが見つかった!!自分の将来が見つかることでこれからどうすればよいのかということも考えることができるようになった。

○　自分たちで行動していくことができるようになりました。松江の環境について積極的に考えることができ，住みたいまちにしていくためにきれいな川をキープすることが大切だと思った。そうするために地域の人と協力してできる取り組みを考えたいと思った。

○　１，２年のときは決められた内容をやるだけで良かったけど，今年の活動は自分たちですべてを決めなければいけなかった。それはすごく大変なことだったけど，１，２年で学んだことを生かしながら活動することができた。島根を住みたいまちにしたいという思いが強くなった。